

令和4年度

公立大学法人会津大学の業務の実績に関する評価結果

令和5年8月

福島県公立大学法人評価委員会

## 公立大学法人会津大学の令和4年度業務の実績に関する評価結果（年度評価）

### 第1 「全体評価」

第3期中期目標期間の五年度目となる令和4年度の業務実績について、公立大学法人会津大学（以下「法人」という。）による自己評価は次のとおりである。

全項目（179項目）

「A：年度計画を上回って実施している」	49項目（27.4%）
「B：年度計画を予定どおりに実施している」	124項目（69.3%）
「C：年度計画を下回って実施している」	6項目（3.3%）
「D：年度計画を大幅に下回って実施している」	0項目（0%）

法人は、第3期中期目標の達成に向けて、教育、研究、国際化、地域貢献及び復興支援等に積極的に取り組み、成果を出している。特に、東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興や地方創生に寄与するための取組は高く評価できる。

#### 1 会津大学

会津大学（以下「四大」という。）は、コンピュータ理工学の分野において国内外で活躍できる優秀な研究者及び技術者の育成はもとより、起業家精神を持つ人材の育成にも努めている。さらに、留学生の受入れや文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業等による国際化にも積極的に取り組んでいる。

また、福島ロボットテストフィールドを拠点に実施している浜通り地域におけるロボット産業への産学官連携、県立医科大学との連携による県民健康調査への協力、先端ICT技術に携わる人材育成事業、大学発ベンチャー企業の創出等、新たな産業の創出及び雇用の拡大のために積極的に取り組んでおり、本県の復興と地方創生に貢献していることについて高く評価できる。

#### 2 会津大学短期大学部

会津大学短期大学部（以下「短大」という。）では、経営、デザイン、情報、栄養、食品、健康、福祉、保育、幼児教育等の専門分野の知識や技術を身につけ地域貢献ができる職業人の育成に取り組んでいる。

また、優秀な学生の確保に向けた新たな入試制度の改善、産学官民との協働・連携、学生参画型実学・実践教育、派遣講座・公開講座、復興支援のための活動、学生へのきめ細やかな生活相談等に積極的に取り組んでおり、高く評価できる。

令和4年度の業務実績（項目別評価）は以下のとおりである。

	十分に実施	おおむね実施	下回って実施	大幅に下回る
教育研究等の質の向上		○		
教育		○		
研究		○		
国際化		○		
地域貢献・東日本大震災等の復興支援	○			
地域社会との連携・協力	○			
地域産業の振興	○			
復興支援	○			
管理運営の改善及び効率化		○		
業務運営の改善、効率化		○		
財務内容の改善		○		
自己点検・評価等		○		
その他業務運営		○		

## 第2 「項目別評価」

### 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

#### (1) 教育に関する目標を達成するための措置

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

**【令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】**

#### (四大)

- ① △ 高校訪問、出前講義、オンライン個別進学相談会、受験生へのアンケート、試験会場を東京及び京都に設ける等、受験生確保に向けて努めたものの、一般入試の志願倍率が3.8倍となり、目標の5.0倍を達成できなかった。情報・データサイエンス系学部の新設が全国的に進んでいることから、優れた学生確保に向けた取組みについて検討すべき課題となりつつある。
- ② ○ 女子入学生増加に向け、女性を意識した広報活動に努め、入学者に対する女子学生の割合が12.5%となり、目標である11%を達成した。
- ③ ◎ 大学院進学フェアや大学・高等専門学校へのPR活動の他、大学院進学の特典等の情報提供を学部1年次から実施する等、広報活動に努め、大学院博士前期課程の定員充足率は95.0%となり、目標である75%を達成した。
- ④ ○ JABEE（第三者機関による教育プログラム認証）による認定に向け、予備審査を受検するとともに、教育の質改善に努めた。

- ⑤ ◎ 学部3年次への進級にあたっては、新規判定者246人のうち222人が進級できた。進級要件の一つであるTOEIC®400点以上という基準を踏まえ、eラーニングや対策クラスの実施、海外教材の積極的利用、TOEIC®750点以上獲得者に単位認定を行う等、大学全体として英語力育成に取り組んだ結果、英語要件だけを満たせずに進級できなかった学生は一人もいなかった。
- ⑥ ○ 成績不振学生の発生を抑えるため、早期把握・注意喚起・学生及び保護者との個別面談に努めるとともに、担当職員による面談を75人の学生に実施した。
- ⑦ ◎ 「ICTグローバルプログラム全英語コース（入学から学部卒業まで英語のみで可能）」の広報に取り組んだことにより、日本人在籍者も年々増加し、在籍人数が106人（留学生51人、日本人学生48人、非正規学生7人）となり、目標である77人を達成した。
- ⑧ ○ 県内企業見学会や県内企業を始めとした合同企業説明会を開催し、県内企業を周知した。
- ⑨ ○ 国際公募を通じ、優秀な女性教員3名を採用し、年度目標及び中期計画（女性教員割合10%）を達成した。

**(短大)**

- ① ◎ 優れた入学者の確保に向け、対面とオンラインによるハイブリット形式のオープンキャンパスの開催、高校訪問・進学相談会の開催増加や入試科目の見直し等により、志願倍率が2.5倍となり、目標である2.0倍を達成した。
- ② ○ 教育の内部質保証のため、シラバスの見直し・充実化を図った。また、成績評価を4段階から5段階へと変更すること、総合的な成績指標としてGPAを導入することを決定した。
- ③ △ 各学科において資格取得に向けた科目を開講するとともに、支援を行い、資格取得希望者の取得率は下記の表のとおりとなった。なお、色彩検定は学生が自主的に受験する検定試験ではあるが、取得率向上に向けた支援を引き続き行うこと。

産業情報学科	二級・木造建築士受験資格100% 色彩検定 2級55.6% 3級88.9% UC級40.0%
食物栄養学科	栄養士免許100%、フードスペシャリスト資格認定試験受験資格100%、NR・サプリメントアドバイザー認定試験受験資格100%
幼児教育学科	幼稚園教諭二種免許100%、保育士資格100%、社会福祉士受験資格100%

- ④ ◎ 関連企業の情報提供等を通じ、免許資格関連職（栄養士、幼稚園教諭二種免許、保育士）への就職率について、目標を達成した。  
 食物栄養学科 実績 100%（目標 100%）  
 幼児教育学科 実績 100%（目標 100%）

- ⑤ ◎ 学生相談室を中心に教務厚生委員・ゼミ担当教員・学生相談員が、学生の相談に随時対応し、学生からの相談2,951件に対応した。
- ⑥ ○ 県内の求人情報を集約のうえ学生に提供したり、学生が情報を得やすい環境整備に努めたりする等、積極的に取り組んだ。
- ⑦ ◎ 学生寮（一箕寮）の生活環境改善のため、入寮生の意見や現状を確認し、石油ファンヒーターを全室に配備するとともに、居室の天井及び床下の断熱改修、廊下換気扇の交換、厨房設備等の備品更新等を行った。また、感染症予防のため、手指消毒用アルコール等を設置した。

**(共通)**

- ① ○ 合同企業説明会や企業見学会の実施、キャリア教育、進路希望の把握、外部講師による講座開催、オンライン面接への対応、学生との個別面談等、きめ細やかな支援に努めたことにより、高い就職率を維持した。
 

四大（大学院）	実績	100%	（目標100%）
四大（学部）	実績	98.0%	（目標100%）
短大	実績	98.3%	（目標100%）
- ② ◎ 学生支援として、授業料等の減免を実施した他、会津大学学生生活支援基金の活用による給付金の独自支給に加え、博士前期課程の学生に対する奨学金の給付、学内で使用できるプリペイドカードの支給、メンタルヘルス支援等を行った。

**(2) 研究に関する目標を達成するための措置**

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

**【令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】**

- ① ○ 四大では、新たに3か国・地域の4大学・教育機関と協力協定を結ぶとともに、京都工芸繊維大学と教育・研究の両面での交流を新たに開始した。
- ② ○ 四大では、研究に勤しむとともに国際会議を主催する等、下記の実績を残した。なお、科学研究費新規採択率については、申込み33件に対して採択件数が8件となり、目標の30%を達成していない。
 

主要学術論文採択数	実績	354件	（目標 300件）
学術論文被引用件数	実績	7,070件	（目標3,000件）
科学研究費新規採択率	実績	24.2%	（目標 30%）
特許出願件数	実績	12件	（目標 12件）
- ③ △ 短大では、地域実践研究等を通じて研究成果を地域社会へ還元したが、実習等に係る学内外の対応が増えたことや新型コロナウイルス感染症の影響により人的交流が制限されたことで、学会発表件数がコロナ禍前の半分以下の20件に減少するとともに、公表された研究活動数が65件となり、目標である100件を達成できなかった。
- ④ ◎ 積極的に産学官連携を推進し、外部資金獲得のため学内連携に努め、下記のとおり目標を大幅に上回った。また、技術展示会へ出展し、知的財産の活用にも力を入れた。

公募型研究費獲得件数	実績	172件	(目標	120件)
外部資金獲得額	実績	4.3億円	(目標	2.5億円)

**(3) 国際化に関する目標を達成するための措置**

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

**[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]**

- ① ○ 海外の大学等との交流協定について、米国、中国、インド、ベトナム等の21の国・地域にある65校との協定を結んでおり、学生の海外研修、派遣の交流活動を展開した。交流協定に基づく具体的な取組として、共同研究の実施やデュアルディグリープログラムの推進、国際学会等の開催、研究者及び学生の交流等を積極的に実施した。
- ② ○ 国際会議等に対する費用支援を3件実施した。
- ③ ○ 184人の留学生を受入れ、外国人留学生の割合が11.8%となり、目標である10%を達成した。

**2 地域貢献・東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置**

**【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。**

**(1) 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置**

**【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。**

**[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]**

- ① ◎ 公開講座及び教員派遣講座を下記のとおり実施し、法人が持つ知的資源を地域社会へ還元した。(オンライン開催も含む)

	公開講座	教員派遣講座
四大	12件	32件
短大	5件	180件

- ② ○ 四大では、県内の中学・高校に教員を派遣し、延べ37校に出前講義を実施する等、英語や理数系科目の学力向上及び国際化支援に努めた。また、会津学鳳高校との高大連携事業においては、スポット講義を5回実施した。
- ③ △ 「パソコン甲子園2022」を開催し、全国から1,505人の高校生等が参加した(オンラインでの視聴回数約5,000回)。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、目標である2,000人に達しなかった。
- ④ ○ 会津若松市を始めとする関係団体等と連携し、県内の高校生が参加する「コンピュータサイエンスサマーキャンプ会津大学2022」の開催を支援したところ、定員30人のところ58人の応募があり、予定のとおり実施できた。

- ⑤ ◎ 四大では、県立医科大学との共同研究を3件、民間企業等との医療・保健分野における共同研究等を5件実施するとともに、メディカルクリエーションふくしまにおいて、AIによる大腸ポリープ検出・大腸がん解析のコンピュータ診断支援システムの技術展示を行った。
- ⑥ ◎ 四大では、「第5回福島テックプラングランプリ（福島県から世界を変えようとする研究者・ベンチャーの発掘・創出を目的）」において教員2名が入賞した。
- ⑦ ◎ 四大では、会津若松市等との「スマートシティ会津若松」の推進に関する基本協定締結を始め、郡山市・白河市・福島県等との連携に取り組み、県内自治体のDX化を支援した。
- ⑧ ◎ 短大では、学生参画型実学・実践教育を29件実施するとともに、地方自治体等からの委託事業を積極的に受け入れ、地域との連携・協働を29件実施し、目標である20件を達成した。

## (2) 地域産業の振興に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 大学発ベンチャー企業を新たに2社認定し、目標である2社認定を達成するとともに、中期目標を1年前倒しで達成した。
- ② ◎ 四大では、ICT活用やデジタル社会の進展に寄与することを目的に、会津産学コンソーシアムと共同で会津IT秋フォーラムを開催した（現地参加者延べ350人、視聴数1,200件）。
- ③ ◎ 会津地区の企業だけでなく県外の企業等も対象にしている、技術相談や意見交換を行う「会津オープンイノベーション会議（通称AOI会議）」を315回開催し、共同研究や事業化につなげる等、産業振興と地域課題解決に貢献した。

## (3) 復興支援に関する目標を達成するための措置

【評価】「I：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ◎ 四大では、「会津大学ロボットテストフィールド研究センター」（南相馬市の福島ロボットテストフィールド内）を中心に、南相馬市内の高校生へのロボット・ICT教育の実施、地元企業等との共同研究、南相馬ロボット産業協議会に加入するとともにロボット開発研究会に参加して助言を行う等、被災地域の産業振興を推進した。
- ② ○ 四大では、民間団体や会津大学発ベンチャー企業等と連携のうえ、「女性のためのITキャリアアップ塾」を開催し、90人にプログラミング等の学習機会を提供し、50人の就労に貢献した。
- ③ ○ 四大では、福島県警察本部のサイバー犯罪対策アドバイザーとしてサイバー犯罪防止に努めるとともに、民間企業と連携して、サイバー攻撃対策演習講座を開催し、人材育成にも取り組んだ。

- ④ ○ 短大では、大熊町との連携協定に基づき、義務教育学校「学び舎ゆめの森」へ講師派遣を4件実施した。また、被災市町村及び帰還住民を対象とした復興支援に関する連携活動を3件実施した。

### 3 管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

**【令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】**

- ① ○ 法人職員を2名採用し、法人職員割合が47.1%となり目標を達成した。また、国際公募等により7名（うち4名が外国人、3名が女性）の教員を採用した。
- ② ○ 事務処理の効率化を図るため、庶務関係の届出について電子申請できるシステム(ワークフローシステム)の本稼働の準備を進めるとともに、教員採用業務に係る書類のやり取りをオンライン化し、事務処理の効率化を図った。

#### (2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

**【令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】**

- ① ○ 産学イノベーションセンターの施設貸出し（研究開発室、ブース型オフィス）は満室となっており、先端ICTラボを含めた使用料収入は、2,925万円となった。
- ② ○ 各種イベントに参加して技術展示を行うとともに、技術移転機関（Technology Licensing Organization）との連携を継続し、知的財産の活用促進を図った。
- ③ ○ 四大では、「会津大学生生活支援寄附金」を活用し、学食・売店で利用できるプリペイドカードを支給し、学生への経済的支援を実施した。また、会津若松市や民間企業等から19件、合計3,241万円の奨学寄附金を受け入れ、学生支援及び教員の研究支援を実施した。
- ④ ○ 短大では、積極的に紅翔奨学金の活用方法を周知し、広く寄附を募るとともに、学生表彰規程に基づき12人の学生に奨学金を支給した。

#### (3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

**【令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】**

- ① ○ 事務職員等の人事評価を年2回実施し、評価結果を賞与等に反映した。また、教員の業績評価制度に係るシステム開発に着手し、評価結果の反映方法について検討を進めた。



**(4) その他業務運営に関する目標を達成するための措置**

**【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。**

**[令和4年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]**

- ① ◎ 人事評価を活用し定期的な面談（年4回）を実施した他、職員面談を適時に行い、心身不調等の早期発見やその後のフォローに努めた。また、動画視聴形式によるメンタルヘルス研修を実施した。
- ② ○ SDGsに関して、ホームページの作成や高校等への出前講座等を通じて広報活動に努めた。
- ③ ◎ 四大の図書館では、入館者数は8%増の27,634人、貸出冊数は14%増の12,709冊となった。また、電子ジャーナルの利用実績は、導入後最多の54,765件となった。また、短大の図書館では、書評コンテストやミステリーツアー、福袋貸出、アート展示等といったイベントを開催し、入館者数は過去最多と同程度の22,773人となった。
- ④ △ 学生の健康診断受診について、四大では、日数の拡大や看護師面談のオンライン化、事前予約システムの活用等による対策を講じたものの受診率は80.8%となり、目標である100%に届かなかった。なお、短大では、ガイダンスやメールで周知し、未受診者へは呼びかけを定期的に行った結果、全項目未受診者は0人となった。

項目別評価 総括表

公立大学法人会津大学

評価項目		公立大学法人の自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
第1	大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	27	B	72	C	5	D	0	II	
		A	18	B	48	C	4	D	0		
		(会津大学) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	7	B	19	C	1	D	0		
		(会津大学短期大学部) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	2	B	5	C	0	D	0		
1	教育に関する目標を達成するための措置	A	18	B	61	C	1	D	0	II	
		A	10	B	41	C	1	D	0		
		(会津大学) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	7	B	18	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	1	B	2	C	0	D	0		
(1)	入学者受入方針及び入試制度に関する目標を達成するための措置	A	6	B	13	C	1	D	0	II	【会津大学】 大学院博士前期課程の定員充足率は95%となり、目標の75%を達成した。  【会津大学短期大学部】 志願倍率が2.5倍となり、目標の2倍を達成した。
		A	4	B	9	C	1	D	0		
		(会津大学) 大学が求める入学者確保のため、高校訪問などの取組を計画どおり実施した。一般入試の志願倍率は目標値を下回ったが、女子学生の割合は目標値を上回った。									
		A	2	B	4	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 大学が求める入学者確保のため、入学者受入方針の周知、積極的な高校訪問、入学生アンケートを踏まえた広報改善などの取組を計画どおり実施し、一般入試の志願倍率は目標値を上回った。									

項目別評価 総括表

公立大学法人会津大学

評価項目		公立大学法人の自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
(2)	教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置	A	5	B	28	C	0	D	0	I	【会津大学】 大学全体として英語力育成に取り組んだ結果、英語要件だけを満たさずに進級できなかった学生は一人もいなかった。  【会津大学短期大学部】 総合的な成績指標としてGPAを導入することを決定した。
		A	3	B	21	C	0	D	0		
		(会津大学) 大学が育成を目指す人材像を理解してもらうため、学位授与方針、教育課程・実施方針の周知・検証や、シラバスの英語化などの取組を計画どおり実施した。ICTグローバルプログラム全英語コースの在籍者数、英語による授業科目数などは目標値を上回る実績となった。									
		A	2	B	7	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 大学が育成を目指す人材像を理解してもらうため、学位授与方針、教育課程・実施方針の周知・検証などの取組を計画どおり実施した。免許・資格取得希望者の取得率及び資格等取得者の資格関連職への就職率はほぼ計画どおりの実績となった。									
		A	3	B	8	C	0	D	0		
(3)	教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置	A	2	B	3	C	0	D	0	II	【会津大学】 国際公募により女性教員3名を採用し、女性教員の割合が10.3%となった。  【会津大学短期大学部】 外部講師を招き、「教育の質保証」をテーマに教員研修会を開催した。
		(会津大学) 施設や機器の環境整備、教員研修、教員国際公募などの取組を計画どおり実施した。外国人及び外国の大学で学位を取得した専任教員等の割合及び女性教員数は目標値を上回る実績となった。									
		A	0	B	3	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 次期学内ネットワークシステムのリプレイスに向けた検討を行うとともに、実習機器の更新整備などの取組を計画どおり実施した。									
		A	1	B	2	C	0	D	0		
		(四大・短大共通) 施設・設備の計画的な修繕や維持管理、教員の募集・採用などの取組を年度計画どおりに実施した。									
(4)	学生への支援に関する目標を達成するための措置	A	4	B	12	C	0	D	0	I	【会津大学】 県内企業見学会や県内企業を含めた合同企業説明会を開催し、県内企業を周知した。  【会津大学短期大学部】 学生相談を2951件実施するとともに、学生支援のためにプリペイドカードを配付した。
		A	1	B	8	C	0	D	0		
		(会津大学) 学生支援に関する方針の検討、全学生への担当教員の配置、就職支援などの取組を計画どおり実施した。真に支援を必要とする学生に対して、授業料の免除等、経済的支援を行った。									
		A	3	B	4	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 学生支援に関する方針の検討、就職支援、寮の運営改善などの取組を計画どおり実施した。外部からの支援制度について、学生へ周知するとともに、各機関から提供された支援物資について、学生に適宜配分した。									
		A	1	B	8	C	0	D	0		

項目別評価 総括表

公立大学法人会津大学

評価項目		公立大学法人の自己評価							評価委員会評価		
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
2	研究に関する目標を達成するための措置	A	7	B	9	C	3	D	0	II	/
		A	6	B	5	C	2	D	0		
		(会津大学) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	0	B	1	C	1	D	0		
		(会津大学短期大学部) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	1	B	3	C	0	D	0		
(1)	研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	A	7	B	6	C	3	D	0	II	【会津大学】 学術論文被引用件数が7070件となり、目標の3000件を大幅に上回る実績となった。  【会津大学短期大学部】 公表された研究活動数が65件となり、目標の100件を達成できなかった。
		A	6	B	5	C	2	D	0		
		(会津大学) 研究科、学部各部門、各センターにおいて年度計画どおり研究に取り組み、主要学術論文採択数、学術論文引用件数ともに目標値を上回った。									
		A	0	B	1	C	1	D	0		
		(会津大学短期大学部) 基礎的研究、応用的研究、地域実践研究を行い、その成果を公表する取組などを年度計画どおり実施したが、研究活動数は目標値には達しなかった。									
		A	1	B	0	C	0	D	0		
(2)	研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	(四大・短大共通) 公募型研究費等獲得の取組を年度計画どおり実施し、公募型研究費の獲得件数及び獲得額は目標を大きく上回った。							II	コンプライアンス研修を教員及び大学院生を対象に実施した。	
		A	0	B	3	C	0	D			0
3	国際化に関する目標を達成するための措置	(四大・短大共通) 研究に必要な施設・設備の適切な維持管理、学内研究費の効果的な見直し、研究費適正執行に関する取組を年度計画どおりに実施した。							II	184人の留学生を受入れ、留学生の割合が11.8%となり、目標の10%を達成した。	
		A	2	B	2	C	1	D			0
		(会津大学) 全体的に年度計画どおりに取り組み、ほぼ予定した成果を上げることができた。全学生数に対する外国人留学生数の割合は目標値を上回る実績となった。									

項目別評価 総括表

公立大学法人会津大学

評価項目		公立大学法人の自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
第2	地域貢献・東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	16	B	12	C	1	D	0	I	/
		A	14	B	8	C	1	D	0		
		(会津大学) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	2	B	3	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	0	B	1	C	0	D	0		
1	地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	8	B	7	C	1	D	0	I	【会津大学】 県立医科大学、民間企業等との共同研究等を実施した他、「第5回福島テックプラングランプリ」において教員2名が入賞した。  【会津大学短期大学部】 地域との連携・協働を29件実施し、目標の20件を達成した。
		A	6	B	5	C	1	D	0		
		(会津大学) 一般市民向けの公開講座、先端ICT人材育成、協定締結自治体や県立医科大学との連携した取組などを年度計画どおり実施した。ロボット事業における県内企業への還元やAOI会議の県内への展開は計画を上回って実施できた。									
		A	2	B	1	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 一般市民向けの公開講座、地域との協働・連携などの取組を年度計画どおり実施し、協働・連携数及び派遣講座数ともに目標値を上回った。									
		A	0	B	1	C	0	D	0		
2	地域産業の振興に関する目標を達成するための措置	(四大・短大共通) 新型コロナウイルス感染症対策のため、施設の外部への貸出を原則中止としたため、利用件数及び使用料収入は前年同様、減少している。								I	大学発ベンチャー企業を新たに2社認定し、目標を達成した。
		A	4	B	1	C	0	D	0		
		(会津大学) 「女性のためのITキャリアアップ塾」の運営を通じた県内就労支援、大学発ベンチャー認定企業への支援などの取組を計画どおり実施した。大学発ベンチャー企業の新規認定数は目標を達成することができた。									

項目別評価 総括表

公立大学法人会津大学

評価項目		公立大学法人の自己評価							評価委員会評価		
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
3	復興支援に関する目標を達成するための措置	A	4	B	4	C	0	D	0	I	【会津大学】 「女性のためのITキャリアアップ塾」を開催し、90人にプログラミング等の学習機会を提供し、50人の就労に貢献した。  【会津大学短期大学部】 復興支援に関する連携活動を3件実施した。
		A	4	B	2	C	0	D	0		
		(会津大学) AOI会議の積極的開催、県立医大や県警本部と連携した取組、ロボット人材育成などの取組を計画どおり実施した。AOI会議の開催回数は目標値を上回る実績となった。									
		A	0	B	2	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 「学び舎ゆめの森」への支援、地域との協働連携の取組を計画どおり実施した。復興支援に関する地域との協働・連携事業件数は、目標を達成した。									
第3	管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	6	B	40	C	0	D	0	II	/
		A	3	B	21	C	0	D	0		
		(会津大学) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	1	B	3	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	2	B	16	C	0	D	0		
1	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	(四大・短大共通) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。							II	/	
		A	1	B	9	C	0	D			0
(1)	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	(四大・短大共通) 教職員の行動規範の周知徹底、職員採用方針による採用活動、職員研修等の取組を計画どおり実施した。							II	事務職員2名を採用し、法人職員の割合は47.1%となった。	
(2)	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	(四大・短大共通) コピー用紙購入量について、対面授業の再開等の影響により、わずかに目標を下回ったが、概ね計画どおり実施することができた。							II	教員採用業務に係る書類のやり取りをオンライン化し、事務処理の効率化を図った。	

項目別評価 総括表

公立大学法人会津大学

評価項目		公立大学法人の自己評価							評価委員会評価		
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項	
2	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	A	0	B	5	C	0	D	0	II	/
		A	0	B	2	C	0	D	0		
		(会津大学) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	0	B	1	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
(1)	外部研究資金等の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	A	0	B	5	C	0	D	0	II	【会津大学】 産学イノベーションセンターの施設貸出し(研究開発室、ブース型オフィス)は満室となっており、先端ICTラボを含めた使用料収入は、2925万円となった。  【会津大学短期大学部】 紅翔奨学金の寄附金を広く募るとともに、12人の学生に奨学金を支給した。
		A	0	B	2	C	0	D	0		
		(会津大学) 講堂・講義室・UBIC・先端ICTラボの施設の貸出により、収入増加のための取組を実施した。UBIC及び先端ICTラボ施設利用料は目標値の9割程度に留まり、講堂等の施設使用料は新型コロナウイルス感染症対策のために、外部貸出を原則中止としたことから使用料収入が減少した。									
		A	0	B	1	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 寄附金確保のための取組を計画どおり実施し、学生表彰規定に基づき奨学金を支給した。									
(2)	経費の抑制に関する目標を達成するための措置	A	0	B	4	C	0	D	0	II	
		(四大・短大共通) 財務状況分析や法人会計制度の研修など、計画どおり実施した。各種研修会・勉強会など職員の資質向上の機会を多数設け、職員の資質向上を図った。									
3	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	/
		(四大・短大共通) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									

項目別評価 総括表

公立大学法人会津大学

評価項目		公立大学法人の自己評価								評価委員会評価	
		計画達成の状況								項目別評価	評価における特記事項
(1)	評価の充実に 関する目標を達成 するための措置	A	0	B	2	C	0	D	0	II	教員評価の基礎データを格納するデータベースの開発に着手した。
	(四大・短大共通) 法人の自己点検評価等の取組や事務職員等の人事評価を、県の制度を準用して運用した。										
(2)	情報発信の推進に 関する目標を達成 するための措置	A	0	B	5	C	0	D	0	II	
	(四大・短大共通) 適切な情報公開、大学の幅広い活動の情報発信の取組を計画どおり実施した。										
4	その他業務運営に 関する目標を達成 するための措置	A	5	B	15	C	0	D	0	II	/
		A	2	B	7	C	0	D	0		
		(会津大学) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	1	B	2	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。									
		A	2	B	6	C	0	D	0		
(四大・短大共通) 全体的に年度計画どおりに取り組み、概ね予定した成果を上げることができた。											
(1)	法令遵守に関する 目標を達成するた めの措置	A	2	B	1	C	0	D	0	II	
	(四大・短大共通) 教職員のコンプライアンス遵守のための研修の実施や、行動規範の周知、徹底を図ることで、概ね計画どおり実施した。										
(2)	施設設備や情報通 信基盤の整備活用 等に関する目標を 達成するための措 置	A	3	B	5	C	0	D	0	II	【会津大学】 通信環境に関して、回線容量を増やすとともに、ネットワークシステムの更新等を実施した。  【会津大学短期大学部】 学生寮(一箕寮)の生活環境改善のため、居室の天井及び床下の断熱改修等を行った。
		A	1	B	3	C	0	D	0		
		(会津大学) セキュリティ対策や附属図書館の利用環境整備に取り組み、計画どおり実施した。									
		A	1	B	1	C	0	D	0		
		(会津大学短期大学部) セキュリティ・インシデントの注意喚起や図書館の利用環境整備に取り組み、計画どおり実施した。									
		A	1	B	1	C	0	D	0		
(四大・短大共通) 施設修繕計画に基づいた施設整備や、短大学生寮の生活環境の維持・改善の取組を、計画どおり実施した。											



項目別評価 総括表

公立大学法人会津大学

評価項目		公立大学法人の自己評価							評価委員会評価			
		計画達成の状況							項目別評価	評価における特記事項		
(3)	健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	【会津大学】 学生の健康診断受診率向上の取組みに努めた が、前年度よりも低い 80.8%となった。  【会津大学短期大学部】 学生の健康診断受診率 は100%となった。	
		A	0	B	2	C	0	D	0			
		(会津大学) 教職員及び四大学生の健康診断受診率を高める取組をほぼ計画どおり実施したが、教職員の再検査受診率は低い結果であった。										
		A	0	B	1	C	0	D	0			
		(会津大学短期大学部) 学生の健康診断受診率を高める取組を計画どおり実施した。										
		A	0	B	4	C	0	D	0			
(4)	新型コロナウイルスを始めとする重大なリスクに対する措置	(四大・短大共通) 教職員のメンタルヘルスチェックを行い、職員の心のケアに取り組むとともに、防災・防犯設備の法定点検や巡回・点検を行い、安全管理体制を維持した。										
		A	0	B	2	C	0	D	0	II	新型コロナウイルス感染症について、教職員・学生へ感染防止対策等の注意喚起を図った。	